

SGH講演会・意見交換会①（環境科学部）

6月21日（火）に、長崎大学環境科学部の長江真樹教授をお招きし、「水環境における化学物質汚染の現状とその検出方法について」というテーマで、講演と意見交換会を行いました。地球上にある化学物質のお話から始まり、公害問題、水質汚染の測定方法等多岐にわたる内容で、生徒は自らのテーマ設定について大きなヒントを得ることができました。講演終了後も、長江先生には長時間に渡り、丁寧に生徒の質問に答えていただき、テーマ設定や調査方法等に関する具体的なアドバイスをいただきました。



SGH講演会・意見交換会②（多文化社会学部）

6月22日（水）に、長崎大学多文化社会学部の王維（ワン・ウェイ）教授をお招きし、「華僑華人・チャイナタウン（中華街）」というテーマでご講演を行っていただき、「華僑」と「華人」の違いや中華街の歴史などについて学びました。講演後、生徒から最近の日中関係についての意見を求められると、王先生は「長崎と中国は地理的に近く、歴史的にも長く良好な関係を築いている。それは私たちの生活に習慣となって根付いている（精霊流しでの派手な花火の使用など）」と述べられ、これからの両国の関係を考える際には、友好の歴史に目を向けることが重要であると語って下さいました。



SGH講演会・意見交換会③（熱帯医学研究所）

6月22日（水）、長崎大学熱帯医学研究所の森田公一所長をお招きし、～長崎からグローバルヘルスを考える「熱帯感染症の現状」～というテーマでご講演いただきました。熱帯感染症について、その知識と対策及び自分たちにできることを学び、考えようという課題で、古典的熱帯病から新興感染症、NTD（顧みられない熱帯病）と熱帯病における日本の関わり方の課題など、実例を交えながら高1生にもわかりやすく説明していただきました。講演後は活発に質問がなされ、森田先生には大幅に時間をオーバーしながらも、一つ一つ懇切丁寧に答えていただきました。

